

『孤高の救い主・3』

'21/10/10

聖書箇所: マルコの福音書 14 章 53-72 節 (新約 p.99-)

皆さんは、“自分自身の限界”、あるいは、“人間の限界”というものを痛感したことがあるでしょうか？ …「ああ、もう、これ以上は、私にはできっこない！（あるいは）これ以上は、どんな人間だってムリに決まっている！」といったようなことです。今回のみことばは、実に、そういったようなことを、私たちに教えてくれているものであるような気がします。

命題: 十字架を目前にして、イエス様はどのように孤独であったでしょう？

今回で3週目となりますが…、私たちは、イエス様が、あの十字架という大変な御業を目前にして、どのような境遇に置かれていたか？ …どのような“心情”でいらっやったのか？ と言うべきものに、可能な限り、焦点を当てて、聖書のみことばを観察していこうとしています。そうすることで、私たち人間という生き物が、如何に愚かで、弱く頼りないか…、如何に罪深い存在であるかということ、今一度、確認していきたいと思うからです。

そうすることで、イエス様がこの地上に来てくださったことの必要性や、また、イエス様が完成して下さった救いの道に対する感謝の思いが、より一層明確になっていくものと信じます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばの少し前…、まずは、マルコ 14:26 以降をお開きくださいますでしょうか？

I・ペテロたちの 過信 ! (26-31 節)

どうか、まずは、先週と先々週に学んだ内容を、簡単に復習させてください。今回のみことばの少し前…、マルコ 14:26-31 のみことばが教えてくれたことは、弟子たち…、特に、シモン・ペテロの“過信”でありました。彼は、真唯一の神であり、また、救い主でもあられるイエス様の預言を否定して、こう言うわけです、「いいえ！ イエス様！ 例え、私以外の全部の者が躓いたとしても、私“だけ”は決して躓きません！ 例え、この命が奪われようと、あなたを否定したりはいたしません！」って…。しかし、そういった舌の根が乾かない内に、ペテロはイエス様のことを否定してしまうわけです。…そうでしょ！

しかし、そのような問題や弱さは、ペテロだけのものではありません…。私も…、また、皆さんも、同じような弱さを持ってしまっていて、私たちも、「もう2度と、こんな過ちは犯したくない！ もう、絶対に、神様を悲しませたくない！」と思っても、またすぐに、同じような罪や過ちを犯してしまう、罪深い生き物なのです。そういったことを忘れてしまうと、私たちは、すぐに、罪の誘惑や悪魔の仕掛けた穴に落ちていってしまいます。…だから、私たちは、いつもいつも、心の中にある信仰の目をつむることなく…、救い主なる神様のことを見上げて…、その神様との交わりを持ち続けるよう、意識していかないといけないのです…。

II・ゲツセマネでの 顛末 ! (32-42 節)

だから、イエス様は、あの「最後の晩餐」の後、弟子たちを連れて、オリーブ山からゲツセマネの園へと下っていかれたのです。…と言いますのは、弟子たちに“祈り”が必要であったからです。…と同時に、あのイエス様もまた、父なる神様との交わりを一番に優先されたのです。

先々週、私たちが学んだ、マルコ 14:32-42 のみことばが教えてくれた、あのゲツセマネでの“顛末”を皆さんもご存知でしょう。イエス様に対して、「私は決して躓きません！」と豪語した弟子たちが、その数時間後には、たった1時間も祈り続けることができず、みじめな姿をさらしてしまいました…。まだ、この時、彼ら弟子たちには、祈りの必要性というものが、イマイチ理解できていなかったのでしょうか。…だから、

イエス様は、こうおっしゃられたのです、『誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。』（マルコ 14:38）って…。確かに、イエス様がおっしゃられたように、この時の弟子たちの心は燃えていたのかも知れませんが…。しかし、今日のみことばは、この後、たった数時間ほどして…、その弟子たちの心さえも打ち砕かれて、粉々になってしまった様を見ることができると…。

III・イスカリオテの 裏切り ! (43-46 節)

どうぞ、皆さん、次は、マルコ 14:43-46 に注目してください。このみことばは、あのイスカリオテが、イエス様のことを“裏切った”！ ということを教えてください。このみことばは、イエス様のことを裏切った…、あのイスカリオテが大勢の者たちを引き連れて、また、イエス様のところへ戻って来たということも教えてくれています。その時、イスカリオテが、仲間たちへの合図として使ったのは、何と“口づけ”でありました。口づけと言いますのは、その当時、愛情や敬意を表わすような手段でありました。

何と、イスカリオテは、自分の師であり…、救い主でもあるイエス様のことを裏切るのに、そういったこととは全く正反対の方向にある“口づけ”という手段を使ったのです！ …しかも、彼は、普通の、形式的な口づけではなく…、「熱心な口づけ」をイエス様にしたのです！

…そのように、私たち人間は、心の中で思っているのとは正反対の行動を取ることができてしまいます。…悲しいことに、私たち人間は、本心を偽って…、いくらでも、「見せかけだけの偽善、偽りの愛」を示すことだってできてしまうのです。…皆さんも、そうでしょ？

IV・弟子たちの 逃亡 ! (47-52 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばの直前、47-52 節をご覧ください…。イスカリオテは、複数のローマ兵だけでなく、祭司長たちの息がかかった、たくさんの群衆…、また、大祭司のしもべたちを引き連れて、やって来ました。このみことばは、そんな時、イエス様の弟子たちが“逃亡”してしまった！ ということも教えてくれています。

でも、その直前…、勇猛果敢？ にも、シモン・ペテロは大祭司のしもべに切っかかりました。しかし、彼の行動は、イエス様のみこころではありませんでした。…確かに、私たち人間は、自分たちの力や努力で、様々な困難に対抗することができます。…しかし、そこには、限界があります。だから、そのすぐ後、ペテロは、意気消沈して…、他の弟子たちと同様、イエス様のことを見捨てて、逃げ出してしまったのです。

私たちも、同様です。私たちも、もし、自分たちの力や方法で、この世の中を生きていこうとするなら、ある程度は可能です。…しかし、そこには、当然、限界があります。…例えば、老いや死という問題…、老いや死に関する問題に対して、私たち人間は、ほとんど無力です。…そうじゃありません？ …しかし、イエス様は違います！ …イエス様は、私たち信じる者たちに、死に対する勝利も、老いに関する解決も与えることができます。…以上が、先週と先々週で私たちが学んだ概要であります。

V・祭司長たちの 策略 ! (53-65 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばの内、53-65 節の部分に注目して下さいます？ このみことばには、当時の宗教家であった祭司長たちの“策略”？ あるいは、“陰謀”について記されています。そこには、このように記されています。

53 彼らがイエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな、集まって来た。

54 ペテロは、遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の庭の中まで入って行った。そして、役人たちと
いっしょにすわって、火にあたっていた。
55 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える証拠をつかもうと努めたが、
何も見つからなかった。
56 イエスに対する偽証をした者は多かったが、一致しなかったのである。
57 すると、数人が立ち上がり、イエスに対する偽証をして、次のように言った。
58 「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別
の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。」
59 しかし、この点でも証言は一致しなかった。
60 そこで大祭司が立ち上がり、真ん中に進み出てイエスに尋ねて言った。「何も答えられないですか。こ
の人們が、あなたに不利な証言をしています。これはどうなのですか。」
61 しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。
「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」
62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗っ
て来るのを、あなたがたは見るはずです。」
63 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「これでもまだ、証人が必要でしょうか。
64 あなたがたは、神をけがすこのことばを聞いたのです。どう考えますか。」すると、彼らは全員で、イエス
には死刑に当たる罪があると決めた。
65 そうして、ある人々は、イエスにつばきをかけ、御顔をおおい、こぶしでなぐりつけ。「言い当ててみろ」
などと言ったりし始めた。また、役人たちは、イエスを受け取って、平手で打った。

●祭司長たちの「罪」!

ここ 53 節以降には、当時の祭司長たちが、必死になって、イエス様のことを十字架刑に追いやって、
何とかして、このイエス様のことを抹殺してしまおうとしていた様子が記されています。…言わば、祭司
長たちの「罪」と言ってしまうと良いと思われれます。そういったことを、今から観察していきましょう。

どうぞ、まずは、53-55 節に注目してみてください。この時、イエス様は、大祭司の私邸…、つまり、そ
の当時の大祭司であったカヤパの自宅へと連れていかれたようです。でも、実は、ヨハネ伝を見えます
と、その前に、イエス様は、アンナスという、かつての大祭司のところへ、まず連れていかれたことが分かりま
す。ま、そのことは、マルコ伝では触れられていないので、今日のところは、あまり触れないでおきます…。

その大祭司カヤパの私邸に行く、祭司長、また、ユダヤ教の長老、そして、律法学者たちが続々と
集まって来ました。…皆、イエス様のことを憎み…、イエス様のことを抹殺してやろうと企んでいた者たち
であります。…果たして、そんな者たちが集まって、公正な…、あるいは、神様の前に正しい裁判が行な
われるでしょうか…いいえ！もちろん、無理に決まっています。だから、ここ 55 節のみことばは、こう教え
るわけです！『祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える証拠をつかもうと努め
た…』って…。

皆さん、分かっていただけます？…明らかに、ここで言われたことは、裁判です。…だから、ここで言わ
れている『全議会』というところには、現代で言うところの国会と最高裁判所を指すような「サンヘドリン」と
いうギリシヤ語が使われてあることから分かります。…ねえ、皆さん。裁判というものは、誰の目から見
ても、公正かつ、法の下に行なわれるべきものであるべき！じゃありません？…普通の、「あるべき裁判」と
いうものは、その者が、何をして…、それがどう、法律的に見て、正しいか間違っているかを、明らかにす
るための“場”であるはずですよ！…そうでしょ！

…にも関わらず、当時、そこに集まってきた祭司長たちやサンヘドリンを構成していた 70 名(正確には
71 名)ほどの者たちは、イエス様を死刑にするために…、そのイエス様を訴えるために、有利な証
拠“だけ”を集めようと躍起になっていたのです。…果たして、このような裁判は、神様のみこころにかな
い…、また、神様に喜ばれるようなものであったでしょうか？

例えば、詩篇 33 節には、次のようなみことばが記されています。『主は正義と公正を愛される。地は
【主】の恵みに満ちている。』(詩篇 33:5) また、ミカ 6 章にも、こうあります。『主はあなたに告げられた。
人よ。何が良いことなのか。【主】は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を
愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。』(ミカ 6:8) って…。このように、天の神様は、私
たちに、「正義や誠実を愛するような者となれ！」ということをお願いされているのです。だから、イエス様は、
当時、神様のみこころよりも、古いだけの人間の言い伝えにばかりこだわっていた律法学者やパリサイ人
たちに対して、こんな風に責められたでしょ？ マタイ 23:23、『わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。
おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではかに重要なもの、
正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならないことです。ただし、十分
の一もおろそかにしてはいけません。』って…。

⇒私たちの天の父なる神様は、何よりも、正義や誠実といったものを愛されます！…そうですね！
…じゃあ、果たして、この時に、祭司長たちがイエス様を死刑にするため、イエス様に不利な裁判
をして、イエス様に不利な証言や証拠ばかりを集めようとしていたことは、神様のみこころにかなって
いたでしょうか？…答えは言うまでもありませんよね？

この当時、祭司長たちが犯した過ちと言うか、罪は、それだけではありません。…例えば、この時、祭
司長たちは、イエス様のことを、当時の大祭司であったカヤパの私邸へ連れていきましたが、本当に、公
正な裁判を行なうためには、神殿の中庭で行なう必要がありました。…大祭司の私邸ではいけなかつ
たのです。…でも、実は、当時、イエス様に対して、死刑という判決を下すために、祭司長たちが犯して
しまったルール違反は、それだけではありませんでした…。

どうぞ、皆さん。今度は、56 節のみことばをご覧ください。ここ 56 節をご覧ください。『イエスに對
する偽証をした者は多かったが、一致しなかったのである。』とあります。…つまり、この時、まあ言えば、
被告人であるイエス様を前にして、次々に証言を募集した。…そんな感じです。…実は、こういったこと
も、公正な裁判、また、当時に行なわれていた裁判のルールに反するものでありました。この当時のルー
ルによりますと、様々な証言は、口裏を合わせたり…、いい加減な証言を採用してしまったりしないため
にも、それぞれに個別で証言を聞く必要がありました。…それはそうですね？

また、この時、イエス様を裁く裁判は、真夜中の内に、慌ただしく行なわれたということも明白です。…
そういったことも、実は、この当時のルールで、正式な裁判は夜中ではなく…、日中の明るい時間に開か
れなければならなかったということも破られています。また、こういった裁判が、大きなお祭りの時には開くこ
とができないというルールもあったし…、もしも、判決で死刑というものが出たら、一夜を置かなければなら
ない！というルールもあったそうで…、そういったルールをすべて、祭司長たちは無視して、とんでもない強
硬手段で、イエス様は、死刑にされてしまったわけなのです。

もちろん、この当時、ユダヤはあのローマ(帝国)に支配されていたわけで…、ユダヤ人だけでは死刑を
実行することができませんでした。…だから、祭司長たちは、この後、夜が明けてすぐ、マルコ 15 章で、イ
エス様を当時の総督であったピラトのところへと連れていくわけですが…、それでも、当時のルールに
沿って考えれば、イエス様の裁判が信じられないほど…、“不平等なもの”であったことは明白です！

1 「マルコ福音書」(パークレー著)ヨルダン社 p.419-422 当時の祭司長たちが様々なルール違反を犯した…

しかし、そんな…、自分に対する不平等な裁判が行なわれていたにも関わらず、イエス様は、そこで自分のことを何一つ弁護されないし…、何もおっしゃられないわけです。…でも、皆さんは、そんなイエス様の心の内をご存知ですか？…今日は、あまり時間も無いので、先週の礼拝で引用したみことばをもう一度紹介させていただきます。

あのゲツセマネの園で、大祭司のしもべに切りかかったペテロのことを抑えようとしたイエス様のお言葉です。マタイ 26:53-54、『53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」』って…。

⇒ここでイエス様がおっしゃられたように、イエス様は、いつだって、こんな茶番のような裁判から逃れる術はありました。いつだって、イエス様は、あんな十字架にかからないで済んだのです！…そうでしょ！…でも、イエス様は、ご自分の選択で…、ご自分の責任において、あの十字架にかかっていっていただきました。…と云いますのは、それしか！私や皆さんが救われる道は無かったからです！…そうでしょ！…そういう意味においては、私や皆さんが、このイエス様のことを、あの十字架へと追いやったのです！

だから、例えば、イザヤ 53 章のみことばは、救い主の姿に関して、こんな預言を残してくれています…。イザヤ 53:4-8、『4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。』

⇒このみことばが教えてくれているように、このイエス様こそ！私や皆さんの救いのために、私たちの罪を負わせるべく…、真唯一の神様が救い主として遣わしてくださったお方なのです！

●イエス様の 証言 ①

だから、イエス様は、過去に、こんな興味深い証言をしておられます。それが、57 節以降、特に、58 節に記されてあるイエス様のお言葉です。どうぞ、皆さん、今度は、58 節のみことばに注目してください。そこには、こうあります。『私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。』』って…。さて、皆さん…、皆さんは、このみことばを見て、彼ら偽証をしている者たちの“巧妙な作戦”に気づかれましたか？

間違いなく、ここで偽証をしている者たちは、イエス様がヨハネ伝 2 章で発言された内容を、“微妙に変えて”、証言しているのです。…そこで、どうぞ、ヨハネ 2 章のみことばを紹介させていただきます。実は、聖書には、はっきりと明確に記されてはいませんが、まず間違いなく、イエス様は、その生涯で2度、あの「宮きよめ」というような…、神殿で強盗まがいの悪徳商売をしていた者たちの机やイスを蹴飛ばして、彼らのことを追い出された、ということなさいました。その最初の宮きよめに関しては、ヨハネ伝にしか記されてありません。その1度目の宮きよめの後、こんな風なやり取りが記されてあります。

ヨハネ 2:18-22、『18 そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをするからには、どうなんしるしを私たちに見せてくれるのですか。」19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。22 それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、

イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。』

⇒皆さん、分かってくださいましたか？…まず、この時、イエス様は、この当時の神殿に…、その在り方と言うか、その現状をなげいておられたわけです。「お前たち商売人のせいで、今、この神殿は、まるで強盗の巣のようだ！」って…。だから、イエス様は、こうおっしゃられたのです、『この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。』って…。このすぐ後の21節にあるように、この時、イエス様は、建物のことではなくて、ご自分のからだのことをおっしゃられたのです。

旧約聖書のレビ記などを見てくださったら分かる通り、神殿というものは、神様の持つておられた御性質や、確かに、造り主なる神様は存在し、ここにおられる！というような御臨在を明らかにする！というような役目がありました。…しかし、そのような神殿の持つ役目を、当時の商売人たちは損ねてしまっていたのです。…しかし、イエス様こそは、神そのものであられ…、また、何よりも、神様の御性質を現わしてくださるお方でした。そうでしょ！

だから、イエス様は、こうおっしゃるわけです、「もしも、この神殿…、つまり、わたしのからだ壊れて無くなっても…、つまり、死んでも、わたしは、3日でよみがえって、神の栄光を現わしてみせる！」…と言うのも、イエス様は、あの十字架の死後、3日でよみがえって、その当時の神殿以上の、神の栄光(=御性質)…、神の臨在というものを明らかにされたからです！…何度も言うように、このイエス様だけが、真の救い主なのです！

それと、先程言った、微妙な変更点について説明させていただきます。…ここで、イエス様は、「もし、神殿が無くなっても、わたしが復活することで、その神殿の代わりを果たせるようになる！という主旨のことを話しておられます。あくまでも、話の中心は、イエス様の復活であり、イエス様が神殿に代わる存在である！ということなのです。…だから、ここ 22 節のみことばが教えてくれているように、弟子たちは、イエス様が復活された時に、ここでのエピソードを思い出したのです。…でしょ？

でも！この当時、このイエス様の話を聞いたユダヤ人たちの印象？着眼点は全く違いました。…彼らは、「神殿を壊すだ！コイツは何てことを言うのだ！」という風に、まるで、イエス様が神殿を壊すのか？という風に思ってしまったのです。…だから、どうぞ、20 節に注目してみてください。彼らユダヤ人たちは、『この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。』と言って、せっかく46年もかかって建てた神殿が失われるということ、それを、たったの3日で建て直せるのか！ということ、彼らの関心は、目先の神殿の建物だけに向いてしまっているのです。

しかも、イエス様は、19 節で、『この神殿をこわしてみなさい。…』と言われただけで、「誰が！」ということは何もおっしゃっていません。…イエス様がおっしゃりたかったことは、「例え、この神殿(=わたしの体)が失われたとしても、私が復活してみせることで、今存在している神殿以上の…、神殿の存在意義(=神の栄光)を示してみせる！」ということでした。

しかし！…どうぞ、今日のみことばの 58 節に注目してみてください！十分日本語でも分かってくださると思います。『私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。』』とありますでしょ！…簡単な国語の問題です。この「壊して…」という部分の主語に注目してみてください。誰が主語になっていますか？…『わたし』、つまり、イエス様でしょ！…何と、この時、裁判で偽りの証言した者たちは、イエス様が、この神殿を壊して！…そうして、そのイエス様が、3日のうちに別の神殿を造ってやる！という風なことを言った！という風に証言したのです。…実は、この部分を原語のギリシャ語で観察してみると、誰が神殿を壊すのか？『わたしが！』という部分が、明確に強調されてあるのです。

この当時、46年もかかって建てられた神殿(まだ建設中であつたが)を、「わたしが壊してみても、また、別の神殿を3日で建ててやる！」なんて言われて、当時のユダヤ人たちが良い気持ちになつたでしょうか？でも、当時の祭司長たちは、そんな偽証を導いて、イエス様のことを十字架へ追いやったのです。

● イエスの 証言 ②

さて…、もう駆け足で、メッセージを進めていかないといけません。どうぞ、今度は、その次にイエスがされた証言に注目していきましょう。…と言いますのも、先程の「この神殿を壊して、3日で、別の神殿を再建してみせる！」という証言もまた、その証人たちの間で一致しなかったからです。

その次…、大きなターニングポイントになったのは、大祭司の『あなたは、ほむべき方の子、キリストですか？』という質問に対する、『わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。』というイエスの証言です。…何と、イエスは、大祭司の「あなたは、ほむべき方の子(つまり、神の子)、キリストですか？」という質問に対して、イエスとおっしゃられたのです。…それはそうです。だって、事実、イエスは、神の子であり…、約束の救い主であられたからです！

時々、キリスト教の異端…、例えば、エホバの証人などは、「イエスは、1度たりとも、ご自分のことを「神である！」とおっしゃられたことがない！厳密に言うと、イエスは神ではなく、神様に創造された、1番最初の被造物である！」というようなことを主張しますが、この個所を見れば明らかです。ここに記されてあるイエスの証言を聞いた大祭司やユダヤ人たちは皆、「イエスが、ご自分のことを神と等しくされた！神を冒涇した！」ということで、激しく怒ったのです！…ここで、大祭司がした、「自分の衣を引き裂く」という行為は、激しい憤りを表わす行為です。…つまり、イエスは、ご自分を神であると主張したのです。

申し訳ありません。本当は、もう少し詳しく、ここ 62 節のみことばを説明したいのですが、今日はもう時間がありません。…ムチャクチャ簡単に言うと、これは、詩篇 110:1 とダニエル書 7:13 に書かれてある預言の融合で、イエスが地上再臨をされる時のことについて、イエスが説明されたのです。…しかし、このイエスの証言が決定的となって、イエス様に死刑判決が下されるわけです。

VI・ペテロの 否認 ! (66-72 節)

どうぞ、今度は、マルコ伝 14 章の最後の部分、66-72 節の部分に注目していきましょう…。**このみことばは、あのペテロがイエスのことを“否認”した!**ということをお話してあげています。そこには、このように記されています。

- 66 ペテロが下の庭にいますと、大祭司の女中のひとりが来て、
67 ペテロが火にあたっているのを見かけ、彼をじっと見つめて、言った。「あなたも、あのナザレ人、あのイエスといっしょにいましたね。」
68 しかし、ペテロはそれを打ち消して、「何を言っているのか、わからない。見当もつかない」と言って、出口のほうへと出て行った。
69 すると女中は、ペテロを見て、そばに立っていた人たちに、また、「この人はあの仲間です」と言いだした。
70 しかし、ペテロは再び打ち消した。しばらくすると、そばに立っていたその人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの仲間だ。ガリラヤ人なのだから。」
71 しかし、彼はのろいをかけて誓い始め、「私は、あなたがたの話しているその人を知りません」と言った。
72 するとすぐに、鶏が、二度目に鳴いた。そこでペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは、わたしを知らない」と三度言います」というイエスのおことばを思い出した。それに思い当たったとき、彼は泣き出した。

● ペテロの 弱さ !

明らかに、バランスが悪いのですが、もうあと5分ほどで、今日のメッセージを終えないといけません…。しかし、ある意味感謝なことに、このエピソードは詳しい説明が必要無いほど、あまりに有名です。でも、どうか、皆さん、分かってあげてください。決して、聖書のみことばは、このペテロのことを、人一倍罪深い存在であるとは教えていません。…そうでしょ？

このみことばは、あのペテロが、ほんの少し前、イエス様に対して、「例え、他の者たちが躓いたとしても、私だけは絶対に躓きません！例え、イエス様と一緒に死ななければならないとしても、私はイエス様のことを知らないなどとは決して申しません！」と豪語した、あのペテロが…、その舌の根も乾かない内に、イエス様のことを否定してしまったという、すべての人間に見られるような“弱さ”や“移り変わりやすさ”を、他のどんな例えよりも分かりやすく教えてくれています。…だから、このみことばは、多くの人たちに覚えられているのではないのでしょうか？

でも、このみことばもそうですが…、聖書のみことばはすべて、旧約も新約も、神様のことを信じる者たちが、正直にありのままを書き記してくれています。本当なら、自分たちの恥ずかしい…、みっともない姿を隠そうとするはずが、聖書には一切、そういった部分が見当たりません。だから信頼できるのです！

でも、よく言われることですが、イエス様の弟子でありながら、イエス様のことを呪いをかけて、「絶対に知らない！」と言い切ったペテロと、イエス様のことを何枚かの銀貨で売りどした、あのイスカリオテとどう違うのでしょうか？…簡単に言えば、私は、「悔い改めの有無」だと思います。確かに、ペテロは、イエス様のことを「知らない！」などと言い切って、イエス様のことを見捨ててしまいました。しかし、彼は、その直前まで、イエス様のことを心配して…、危険を承知で、大祭司の庭までやって来ました。…イエス様のことが心配であったからです。

また、ペテロは、確かに、この時、イエス様のことを「知らない！」などと言って、強く否定してしまったことを、その後で、激しく後悔して、彼は、そのことを悔い改めて？イエス様から赦されたのです。そういったことがヨハネ伝 21 章に記されてありますでしょ？

しかし、それとは逆に、あのイスカリオテは、どうだったでしょう？…彼は、その罪を激しく後悔“は”したでしょうが、イスカリオテの場合は、それを悔い改めようとはせず、自分の方法で決着をつけてしまいました。それが自殺という選択です。だから、イスカリオテは救われなかったです。

● 私たち人間の 限界 !

さて、今日、最後に、私たちが確認しておきたいことは、私たち人間の“限界”であります。どうか、皆さん、今日を含むここ3回のメッセージで、私たちが学んだことを思い出してみてください。…例えば、自分の力に過信していたペテロは、幸せだったでしょうか？…確かに、人は皆、自信に満ち溢れている間は幸せでしょう。しかし、あのペテロがそうであったように、私たちはすぐに、何かで挫折して…、意気消沈してしまいがちです。浮き沈みが激しいのです！

あのゲツセマネの園で弟子たちがそうであったように、私たち人間は皆、弱い存在です。例え、信仰は燃えていたとしても、すぐに、罪を犯し…、墮落してしまいます。また、私たちの信仰が燃えている！と思っても、実は慢心しているだけかも知れません。「俺は大丈夫だ！」って…。

あのイスカリオテは、一時は信頼していたイエス様のことを、銀貨 30 枚で売りどしてしまいました。…自分自身の選択で、そうしておいて、その後、彼は激しく後悔して、自殺してしまうのです。…その後、イエス様の弟子たちは皆、イエス様のことを見捨てて逃亡してしまいます。また、祭司長たちは、神様のみこころを軽んじて、救い主を死へと追いやってしまいます。例え、それが神様の御計画であったとしても、彼ら祭司長たちの罪や過ちが軽くなることはありません。

…そうやって見てみますと、私たち人間のやっていることなんて、どれも大したことはありません。…この世の中で、私たちが得ることのできる地位や名誉、たくさんの財産やステータス、そういったものにどれほどの価値があるでしょう？…例えば、皆さんが、どれほど価値あるものを手にできたところで、私たち人間は、いつか必ず、そういったものを手放さないといけなくなるのです。…そうでしょ？…果たして、そういったものが、私たちに、決して失うことが無いような喜びや、永遠に続く救いをもたらしてくれるのでしょうか？

大切なのは…、また、素晴らしいのは、そういったことをすべて御存知の上で、私たちの罪のため…、こんなどうしようもない私たち人間を救うために、神のひとり子であられるイエス様が自ら進んで、あの忌まわしい十字架へと向かって行ってくださって、罪の贖いを完成してくださったことではないでしょうか？

どうか、こんな救い主を拒むことなく…、あるいは、悲しませることなく…、毎日を、このイエス様に喜ばれるよう、歩んでいていただきたいと思います。また、このイエス様を信じておられない方は、1日も早く、このイエス様を、真の神、あなたの救い主として、信じ受け入れていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。